

戦没者遺族会への聞き取り調査（記録）

井上 秀夫 さん

小林先生：井上さんご自身の体験を聞いてもいいですか。

井上さん：あの当時僕小学校 4 年か 5 年やったかね、左京区の修学院とこね、高野川んところで、まあ当時はもう勉強なんかほとんどせえへんわね。

仲間と高野川で夏泳いどったらね。飛行機が何か打ちよったゆうて。分からんけどね、まあ土手の方やからね。

当時は服やらゆうたかて、夏やからパンツとシャツぐらいやったね、僕らは。ほんであがってきたら、なんでこんなにかけたった服がボコボコ穴あいてんねん破れてんねんちゆうかんじやね。

帰ったら、穴があいてる言うてお袋にゆわれて、なんでこんなん、ほんなん全然わからん。後で艦砲射撃やゆうの分かってんけどね

小林先生：それはいつぐらいですか？

井上さん：夏やさかいまあ 8 月くらい。

小林先生：あの勤労奉仕とかね、そういうのはされてるんじゃないですかね

井上さん：やりました。落下傘に利用する、もうほぼ忘れてるけど草で弦みたいなんある。実際は利用されてるか利用されてへんか分からへんけどね。

小林先生：勤労奉仕ってどのくらいされてました。

井上さん：僕の学校、修学院小学校は軍需工場になってたんですね。八瀬のプールが軍需工場の一部になって。僕らの小学校は多分、今でいうベアリングみたいなのをつくっていた。

小林先生：学校が工場になってた。

井上さん：修学院小学校ね。ほんの一年か 2 年くらいやったかな。憲兵いうのが鉄砲の形した木を持って立ってる。

小林先生：働いている人はどういう人が働いていた

井上さん：どやろな、やっぱり兵隊さんとしか意味がわからなかったねえ、まあ小学生やからね。

小林先生：女工さんみたいな人は来てました？

井上さん：女工さんはいなかったねえ。で、顔をちょっとみたら、おんなじ学校の僕らがお兄ちゃんおにいちゃんいうてた人がちょっといた。あの大学生みたいなもんやろね。

そんな人やらは軍服はそんなん着ていないねんけど。憲兵が軍服を着てた。

まあそんなでまあ学校の運動場はみな防空壕やらイモ畑やったからね。運動場というのは、今で思うけどほとんどなかった。防空壕とイモ畑。

小林先生：出征兵士の見送りとか、それとか英霊の出迎えとかそういうのは記憶ありますか？

井上さん：まあ親父が小学校、僕が2年生の誕生日やったかね、4月28日、兵隊にいつてね。

まあそれでご近所のみなさんが、まあ今でいう自治会みたいなところやろね。そこらへんのところに集まって、ええ格好して出ていかなあかんちゅうもんで高野の電車んとこまで送って、君が代やらいろんな歌うたいながら旗ふって送ったのは記憶にあるね。

小林先生：その時はどういう気持ちやったか

井上さん：まあどういう気持ちで、おふくろは泣いてたみたいやけど、僕自体はみんなが寄ってくれたから。

で親父が、京都の森永のところで、まあ一応あの料理長みたいなのをとったからね。で結構森永キャラメルバラを配ってた、その人らに。それくらい印象にのこってる。まあ楽しかったね。

小林先生：そのあとお父さんはどういう風に。

井上さん：まあ岡山練兵場に行つて。

小林先生：岡山ですか。

井上さん：ええ岡山のねちょうどあの後楽園ね。あつこ練兵場なつて。

まあ親元がたまたま親父のところが岡山ですねん、御津ゆうてね。

小林先生：それは歩兵でいかれましたか

井上さん：当時はそなん全然覚えてないけど、工場の艦砲射撃、放射砲かなんか、そなんに行つた言うてたね。

戦死してからそういうのきたら、お偉いさんが知らしてくれはつたゆうて、お袋いうてた。

小林先生：それで岡山行つてその後はどう？

井上さん：それで2年もせんうちに行つたんちゃうかな海外。

小林先生：どこに行かれたかとか分かります

井上さん：はつきり記録にのこつとるんは、西ニューギニアやね。

小林先生：それでお父さんはその西ニューギニアの方へ行かれて、そこで。

井上さん：そこで戦死したみたい。

小林先生：戦死されたのは何年ですか？

井上さん：何年や18年ぐらいちゃうかな。確か18年の10月4日いつてたかな。命日くらいは覚えとけゆうて嫁はんと言われてから、嫁はんの方がよう知つとんねんけど。

小林先生：で、それであの戦死された後遺骨とかはどう。

井上さん：何年か後、空箱に何が入ってたやろ、もうちょっと記憶にないけど。遺骨なんか全然は行ってへんだね。なんか現地の石くらいはいつとった。現地の石とは限らへんけどね。そこらへん高野川で拾った石か分からへんけど。

小林先生：遺骨が帰ってきたのはいつぐらいですか。戦争中ですよ。

井上さん：戦争中か、22、3年やった思うね。

小林先生：ああ終わってからですか。

井上さん：もう終わってから。

小林先生：戦後に帰ってきた。

井上さん：まあお袋と何が入ってたのやろなちゅう感じで、僕にいわしゃあ、中学生くらいやったからな。好奇心旺盛やったから開けてみたけど。何にもこんな石みたいなもんやちゅうことで。

お袋は紙包んできれいにしておいて、祭壇の方においとったけど。

小林先生：出征されたのが何年くらいかな。41年ぐらいですか。

井上さん：僕が小学校1年、2年やったな。2年の4月28日やったからね、それは覚えている誕生日やったからね。

小林先生：それ以降は生活の方はどういうふうにな。

井上さん：まあ一応、森永の方からお袋はなんかもらってたみたいなんやけど。まあお袋も着物売ったり結構してたんちゃいますか。うっすら覚えてる。物々交換みたいな。

まあそれで僕が小学校の4年生の2学期から地域の新聞配達してね、自分は自分の小遣い稼ぐゆうて。

小林先生：生活はお父さん出征されてから大分、厳しくなった。

井上さん：厳しくなったですね。2階に住んで、下を洋服屋さんの下請けみたいな貸してた。で、友禅の職人やらに貸したりね。出入りはそんな人がしはったから。

あんまりもうだんだん中学生くらいになったら家に帰ってきいへんさかい。

小林先生：新聞配達されたのは家計を助けるため。

井上さん：そらもう、小遣いやね。

でまあおふくろに中学時分腹減ったいうたら、動くさかいやゆうてお袋に怒られたね。

まあ悪いことしました。あんな畑のイモ、生芋とってきて、それかじって。

小林先生：ご兄弟は何人。

井上さん：妹がおるだけやけどね、妹は岡山の親父の里の方へね行ったから

小林先生：それはおとうさんが出征されたときに

井上さん：出征して間もなく岡山の方から、まあ食料難も続くさかいやゆうて、

親父の親が持ってきてくれるんでっけど、連れて帰った。確か。

小林先生：小学校だったら疎開とかは。

井上さん：疎開は僕らなかった。4年生5年生は近所の養徳小学校とか、地域のもんが近いところの学校に通わさされて。

小林先生：修学院じゃなくて、修学院は工場になっているから。

井上さん：そう、工場になってるときやね。まあ6年生おわり中学なったかな、中学なったときにはじめて中学出来るいうたもんな。

その中学も一乗寺ところに、すぎいたばっかしの校舎やからね。運動場ないんで田んぼを高野川から石を運んで、まるでもう今考えたら僕らが運動場作ったみたいな、石をいれてね。

小林先生：戦争が終わってね、戦後の京都の状況とか、覚えてはりますかね。生活でもいいですし

井上さん：まあとにかく食べるものがないから、今の豆かすいうて、先生知ってはるか、今の節分の豆あれねあれの搾りかすやね、ぺちゃんこなってる。あれを食べるんやから、今のように何もかもおいしくできてないわね。

油を搾ったカスやからね。それで砂糖かて入ってきたかて、中にウジがいっぱい。今でこそ白いウジやいうけど、持ってみたら動いてたもんね。

まあ僕は洋菓子の職人になってね。一応今はもうやめてるんですけど。

そらあ洋菓子の職人になったの、親父の先輩がひっぱってくれたからね。

小林先生：その戦後になると今まで受けてた、おそらく援助をうけられなくなると思うんですけど

井上さん：当然ですね

ようするに戦争が終わってからの生活はどういう風に、お母さんが何か。

井上さん：いや、あの内職やってみました。何の内職やったかな、定かでないですけど。着物かな、やってみましたわ。

もう夜なんかおふくろ寝てないんかないいう感じやったね。貧乏やね。

それから僕は東山蹴上のところに、進駐軍に占領されてるいうところに。あそこいったら18歳未満は使ってもらえないゆうことね。

そこのコック長が先輩、親父の先輩やったから来いいうんでいったんやけど、いってもいってもお客さんの残りみたいな食べさせてくれんねん。うまいねんけど、それを皿洗いばかりさせるねん。

そんな嫌やからもう僕も新聞配達して、ちょっとどっちかいうたらワンパクなほうやから一週間くらいで飛び出して、まあそういうことあって、大阪の方へねえまあ一人で出て行って。

まあ今の心斎橋やけどあのへん南区ね。南警察の前くらいに、すみくら金物いうて日本であの当時の1, 2位争う金物屋。で、従業員募集して書いてあったん

やろね。で、働くためには今でいう保証人やね身元がわからへん。身元ゆうたかて日本人やないかゆうて当時ゆうたんやろね、働くんのに俺が身元やないか、言うた思うわ。

小林先生：そこで修行されて。

井上さん：そこで修行というか、その食べるためにすみくら金物屋はいったけどね。

小林先生：で、妹さんは岡山に行かれて、その後どう。

井上さん：妹は百姓やからね。

小林先生：一緒に生活はされてないんですか

井上さん：もうほとんど。僕よりも7つ下やねんけどね。もうたまに会うか元気かゆうて電話するくらいで。

小林先生：お父さんが出征されてから、全然一緒に生活することは。

井上さん：なかったですね。

小林先生：ありがとうございました。